



もっと
知りたい!

郷土の偉人・福澤諭吉の知られざるエピソード

エピソード①

一万円札になった理由!

福澤諭吉の肖像画が1万円札に使われたのは1984(昭和59年)から。肖像画に選ばれたのは、業績や知名度、そして明確な写真や肖像画が残されている人物ということが理由だったそうです。ちなみに諭吉は写真を撮ってもらうことが大好きで、撮影してはあいさつ代わりに方々へおくっていたそうです。

エピソード②

暗殺されかけた!



開国文化論を主張していた諭吉は反対の意見を持つ攘夷論者から命を狙われることもあり、親戚の増田宋太郎や、のちに門下生となる朝吹英二にも命を狙われたことがあります。そんな暗殺対策のため、明治初年に住んでいた家では床に細工をし、脱出ルートを作っていたといえます。

エピソード③

競秀峰は諭吉が守った!

故郷にある耶馬溪の競秀峰一帯に開発計画が持ち上がり、その土地が売られると聞き、自然を守るために福澤諭吉があたり一帯の土地を私費で買い取りました。今でも耶馬溪の素晴らしい景色が見れるのは、諭吉先生のおかげですね。

エピソード④

なかなかグルメだった!



大阪の適塾時代から牛鍋をよく食べたり、明治初期、あまり一般的でなかった牛乳を一般に薦めるなど、食べ物でも時代の先端を走っていた福澤諭吉。日本に初めてカレーを紹介した、というエピソードもあります。また、諭吉が創設した新聞「時事新報」には、料理の献立が連載されていました。

エピソード⑤

実は健康オタク!?

諭吉は人一倍健康に気を使い、独自の健康法「居合い抜き」の練習「米つき」「散歩」を日課としたそうです。そのかいあってか、諭吉が48歳の時身長173.5cm(当時の男性平均159cm)、体重は70.25kgという、当時としてはかなり立派な体格だったようです。

エピソード⑥

著作権法の先駆け!

諭吉の書いた「西洋事情」があまりに人気で、勝手に作られた「海賊版」と呼ばれる偽物の本がたくさん出回りました。諭吉はそのことに怒って、きちんと政府に取り締まるよう訴え、さらに自ら出版社を作り、作者の権利を守りました。「著作権」という考えを日本に広めたのは諭吉だといわれています。

エピソード⑦

天気予報も諭吉から!

諭吉は、日本で初めて「天気報告」を新聞『時事新報』に掲載しています。初めは結果の「報告」でしたが、やがて「予報」となりました。



エピソード⑧

乳母車が人力車へ!?

欧米で生まれた乳母車を最初に日本へ持ち帰ったのも諭吉です。幼い息子たちへのお土産だったそうです。この乳母車が、のちに明治時代を象徴する「人力車」の発明のヒントとされたという説もあります。



上記エピソード以外にも、まだまだ知られていない意外な素顔をもつ福澤諭吉。

★福澤諭吉について知って、川柳にしてみませんか? 諭吉に関する本が図書館にたくさんありますよ!